



NEWS LETTER

岩手県では、陸前高田市、釜石市、宮古市、盛岡市で子どものグリーフサポートを行っています。今回のニュースレターでは、岩手の活動にクローズアップして、プログラムの様子や会場の工夫、ファシリテーターの声などをお伝えします。

岩手のグリーフサポート特集

陸前高田

陸前高田では、月に2回グリーフプログラムを開催しています。会場は陸前高田市高田町にある陸前高田レインボーハウス（運営：あしなが育英会）で開催しています。



陸前高田市には子どもグリーフサポートステーションの職員が1名常駐しており、地域に密着しながら、きめ細かなサポートを心がけて活動しています。グリーフプログラムは、震災や病気、事故、自死などにより大切な人を亡くした小中学生が対象です。

宮古

宮古市では、年に5回ほどグリーフプログラムを開催しています。会場は主に宮古市五月町にある宮古地区合同庁舎で、沿岸広域振興局保健福祉環境部宮古保健福祉環境センターと子どもグリーフサポートステーションが実施主体となり、あしなが育英会の共催で開催しています。プログラムには、震災により親を亡くした小中学生が参加しています。



※出張プログラムという形で開催しています。

釜石

釜石市では、年に5回ほどグリーフプログラムを開催しています。会場は釜石市新町にある釜石地区合同庁舎で開催しており、沿岸広域振興局保健福祉環境部と子どもグリーフサポートステーションが実施主体となり、あしなが育英会の共催で開催しています。プログラムには、震災により親を亡くした小中学生が参加しています。ほかにも、中高生プログラムも年に6回ほど開催しています。



※出張プログラムという形で開催しています。

盛岡

盛岡市では、年に2回グリーフプログラムを開催しています。会場は盛岡市三本柳にあるふれあいランド岩手で、沿岸広域振興局保健福祉環境部と子どもグリーフサポートステーションが実施主体となり、あしなが育英会の共催、岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト心のケア班と NPO 法人インクルいわての協力で開催しています。震災により親を亡くし、沿岸部から内陸部へ避難している小中学生を対象としています。



※出張プログラムという形で開催しています。

※各会場では保護者の会も開催しています。
※上記の情報は 2015 年 11 月現在のものです。
今後変更となる場合があります。



岩手県では、行政機関である沿岸広域振興局保健福祉環境部（以下「沿岸広域振興局」）をはじめ、さまざまな団体と連携・協力しながら、子どものグリーフサポートを行っています。陸前高田では、地域にあしなが育英会が建設した「レインボーハウス」を会場として借りていますが、宮古・釜石・盛岡では、地域の施設を借り、出張プログラムという形で開催しています。陸前高田は沿岸部であることから主に震災により大切な人を亡くした子どもたちが参加しています。釜石・宮古・盛岡は、岩手県の被災遺児家庭支援事業として、沿岸広域振興局と共同で開催しているため、震災により親を亡くした子どもたちが参加しています。震災の影響はもちろん、震災だけではなく課題もあり、息の長い支援の必要性を感じます。

出張プログラムとは？

貸し会場等を利用し、毎回おもちゃや物品を運び込んでプログラムを開催する形です。場所にとらわれず、様々な地域や施設でプログラムを行うことができます。岩手では盛岡・宮古・釜石が出張プログラムの形をとっており、ほかには福島県でも同様に出張プログラムを開催しています。



会場の様子は次ページで！

プログラム会場

岩手県のグリーンプログラムの会場を紹介します。写真は、陸前高田グリーンプログラムの会場である「陸前高田レインボーハウス」(運営：あしなが育英会)です。出張プログラムでも、会場を工夫して、このようなスペースをつくっています。

※ 陸前高田レインボーハウスの見学については、あしなが育英会東北事務所(022-797-2418)までお問合せください。あしなが育英会のレインボーハウスは、仙台、石巻、神戸、日野(東京)にもあります。



おしゃべりの部屋

輪になってお話をすることができる部屋です。「はじまりのわ」「おはなしのじかん」「おわりのわ」はこの部屋で行っています。出張プログラムの場合は、ラグマットやクッションなどを使い、このスペースをつくっています。



あそびの部屋

おもちゃや遊び道具がたくさんある部屋です。好きなもので、好きなように遊ぶことができます。出張プログラムの場合は、会場におもちゃを運び込み、並べるなどして、自由に遊ぶことのできる環境をつくっています。



火山の部屋

安全に暴れることのできる部屋です。柔らかいクッションやサンドバッグなどがあり、体を動かして気持ちを発散するのに適しています。出張プログラムの場合は、テントや空気式のパンチングバッグを使って、このスペースをつくっています。



多目的ホール

広くて、体を大きく動かして遊ぶことのできる場所です。出張プログラムの場合は、できるだけ広めの場所を確保し、動きの大きな遊びができるスペースをつくっています。



保護者の部屋

※レインボーハウスでは「リビング」

子どもたちが過ごす場所とは別の部屋にあり、保護者がゆっくり過ごすことのできるスペースです。出張プログラムの場合は、保護者の部屋を1部屋用意し、お茶やお菓子を準備しています。

ファシリテーターインタビュー

岩手県のグリーンプログラムで活躍しているファシリテーターに、グリーンプログラムに継続して参加している理由や、子どもたちとの関わりについて聞きました。聞き手：大塚(岩手担当プログラムディレクター)、東郷



我妻さん(写真左)と大塚(右)

我妻 由幸 岩手大学4年生

盛岡在住。2013年からファシリテーターとしての活動をはじめ、主に陸前高田のプログラムを中心に活動。山形出身のため、あだ名は「やまちゃん」。

—我妻さん(以下「やまちゃん」)は、ファシリテーターとしてグリーンプログラムに継続して参加していますが、プログラムに参加しはじめたのはいつ頃からですか。

我妻「以前から別のボランティア活動をしていたことが縁でグリーンサポートを知り、2013年の夏に、陸前高田で始まったばかりのグリーンプログラムに初めて参加しました。初めてのプログラムはとても楽しかったです。その後も、また参加したいと思いつけ、継続して参加しています。」

—「また参加したい」と思いつけている理由は何なのでしょう。

我妻「教師を目指しているのですが、子どもの成長に関わっていくことに関心を持っています。だからプログラムにも継続して参加したいと思ったのかもしれません。グリーンプログラムに参加していると、子どもたちの背が伸びたり、お話しする内容がちょっと大人びてきたり…。子どもたちの様々な成長を感じることができています。」

大塚「やまちゃんから以前、ファシリテーターとして子どもたちと関わることで、『子どもたちの生活の続きを一緒に体験している』という話を聞いたことがあるのですが、それがとても印象に残っています。やまちゃんは、そういう感覚でプログラムに参加し続けているのだな、と。」

我妻「そうですね。それから、はじめは子どもたちと会えること自体が嬉しかったのですが、だんだん、プログラムに参加することで他のファシリテーターとの関わり、例えば考えを共有したり学び合ったりすることが、自分のためにもなるし、楽しいと思いはじめました。それも「また参加したい」という気持ちの元となっています。ここでの学びは他の場所にも活かしていける気がするし、活かしていこうと思っています。」

大塚「私もやまちゃんから多くを学ばせてもらっています。やまちゃんが子どもと遊んでいるところに私も混じると、不思議と私自身が心地よく感じるのです。」

—どのようなことを意識しながら子どもたちと関わっているのですか。

我妻「その子のことをちゃんと見る、ということだと思います。その子の立場になって、気持ちを想像します。でも、それを当てはめるのではなく、実際どのような気持ちなのかは、子どもから教えてもらい、見せてもらい、ということを大切にしています。こちらの想像や考えを押し付けるのではなく、その子から出てくるのを待ちます。」

—今後、何かやってみたいことや挑戦してみたいことはありますか。

我妻「大学では美術を学んでいるので、「表現すること」を活かしていきたいと考えています。特に、子どもたちが表現をしやすい環境をつくってきたいです。美術におけるデザインは、相手の思いを汲み取ることから始まるので、子どもたちの気持ちを大切に、安心して過ごせる場をデザインしていきたいと思っています。グリーンプログラムはみんなと一緒に作り上げている場という感じがあるので、これからもみんなと一緒に考えながら、プログラムをつくっていきたくと思います。」

～インタビューを終えて～

今回お話を伺い、我妻さんは学び向上することを続けながらも、肩肘を張らず、純粋に子どもたちや他のファシリテーターとの関わりを楽しんでいるように思えました。一緒にいるとホッしてしまう大らかな雰囲気は、彼自身がこの場を楽しんでいるためなのかもしれません。今後も、さまざまなファシリテーターの声をお届けしたいと思います。

コラム COLUM 「“支援者”として」

岩手県担当職員の大塚光太郎です。今回は、私が支援者として、今まで何を考え、何をしてきたか等についてお話しさせていただきます。

「支援」というと、皆さんはどのようなイメージを持たれるでしょうか。私が調べた範囲では「他人を支え助けること」「力を添えて助けること」「力を貸して助けること」などがありました。共通する言葉は「助ける」という言葉です。

私が、岩手県担当の支援者として、岩手に定住させていただきながら大事にしてきたことは「助けること」ではありません。私が大事にしてきたことは「理解すること」と「教えていただくこと」です。

私は2011年4月に学生時代のインターンシップ先のNGO団体を通じて、ボランティアとして初めて東北に入らせていただきました。その後も、立教大学コミュニティ福祉学部東日本大震災復興支援プロジェクトのプロジェクトメンバーとして、月に一度以上は関東から東北に足を運ばせていただくような毎日を送っていました。そして、2013年4月より子どもグリーンサポートステーションの職員として岩手県陸前高田市に定住させていただき道を選びました。

外部から移り住んだ支援者として、まず私は、この地域がどのような地域であるか、何が失われ、何が在り、地域の方々がいまどのような生活をされているのか等を体感させていただき、敬意を持って「理解すること」を心がけました。大規模な災害に遭ったこの地域をどのように再編していくかの主役は地域の方々であり、そのそばでお手伝いさせていただき身として、その地域で起こったことや起こっていること、地域の方々の生活を理解しようとする姿勢や感覚が大切と考えるからです。

また、現地で「被災地支援」の様子を見てみると、地域の方々被災者役割や一方的な「支援」、答えを押し付けられる様子があり、私はそれらをとっても悲しく思ってきました。地域の方々には誰かのおかげで再生していくのではなく、誰かの力を借りながらも、その人自身で再生していく力があると私は考えているからです。支援者としてそのようにならないためには、今求められていることや困っていること、その人の持っている答えを「教えていただくこと」が大事だと私は考えます。

例えば「自転車に乗れない」子がいるとします。その子はどのようにして自転車に乗れないのでしょうか。練習方法が正しくないからでしょうか。練習量が足りないからでしょうか。もしかしたら、それらも当てはまるかもしれませんが、私の生活させていただいている地域では、「平地がなく練習する場所がないから」や「道



大塚 光太郎 (おおつか こうたろう)

子どもグリーンサポートステーション職員
岩手県担当

路は大型の工事車両が行きかえ危なくて練習ができないから」などということが要因として考えられます。平地は、家を失われた方々の応急仮設住宅が建設されています。工事車両は復旧・復興事業のために連日稼働しています。そこは、かつて子どもたちの公園であり、グラウンドであり、通学路であり、自転車の練習ができる場所でした。このような地域の現状を理解することで、「自転車に乗れない」ということが、「自転車の練習をする環境がなくなってしまった」ということと想像できます。その子の「自転車に乗れない」という言葉には、震災によって失ったものの深さ・重さ・複雑さがあることが伺えます。ただ、そのことをその子自身が「教えてくれる」まで、そうだと決めつけることはしません。そのような理解や想像する姿勢と共に、その子の答えを尊重することが、その子の思いに寄り添うということではないかと私は考えています。

これらのことは、関係機関はもちろん、地域の方々に寄り添う上でも大事なことだと私は考えています。私は、実際に生活させていただき、地域や関係機関、人々のことを「理解しよう」努め、何度も顔を合わせてきました。結果、地域の方々からグリーンについての研修会の要望をいただいたり、グリーンプログラムにご家庭をつないでいただいたり、子どものことで相談をいただいたりなどということがあります。三陸のおいしい海の幸なども有難いことに教えていただき、関東にいた頃より6キロも蓄えることにもなりました。これから、蓄えすぎた体重は減らしつつも、「教えていただく」関係から「顔の見える関係」へ、「地域を支えるチーム」創りのお手伝い、その深みを増していけたらと思っています。

陸前高田市でのグリーンプログラムは、おかげさまで、2015年11月で50回目の開催を迎えます。子どもたちやファシリテーターからたくさん「教えていただいて」います。ファシリテーターはとても素敵な方々ばかりで、素敵なチームができています。ファシリテーターからは「よくわからないけど（この場に）来たくなる」「毎回たくさんのお話を学ばせていただいている」「このプログラムが好きです」というようなお声をいただいています。ファシリテーター同士が「理解」し合い、それぞれのことを「教えてもらいあう」という関係があるから、よいチームが生まれているのかもしれない。これからも、微力ながら、「助ける」ではない「支援」の在り方、「理解し教えていただきながら」、地域の歩みのお手伝いをさせていただけたらと思います。

11・12月のプログラム予定

11月

- 7日(土) 仙台グリーンプログラム
陸前高田グリーンプログラム
- 17日(火) 仙台高校生プログラム
- 21日(土) 仙台グリーンプログラム
陸前高田グリーンプログラム
- 23日(月) 盛岡ワンデイ・つどいのわ
- 28日(土) 福島グリーンプログラム

12月

- 5日(土) 仙台グリーンプログラム
陸前高田グリーンプログラム
- 11日(金) 釜石中・高校生プログラム
- 12日(土) 釜石ワンデイ・つどいのわ
- 15日(火) 仙台高校生プログラム
- 19日(土) 仙台グリーンプログラム
陸前高田グリーンプログラム
- 26日(土) 福島グリーンプログラム

お知らせ

ファシリテーター養成講座を開催します。

仙台会場

2016年1月30・31日
場所：仙台レインボーハウス
(仙台市青葉区五橋)

詳しくはホームページをご覧ください。

各地のグリーンプログラムの様子

仙台、福島、岩手（陸前高田、釜石、宮古、盛岡）の各地で開催しているグリーンプログラムの、9月～10月の報告です。

9月～10月は少しずつ気温が下がり、季節の変化を感じる時期でした。子どもたちからも、「朝、布団から出るのが辛くなってきた」などという声が聞かれました。しかしグリーンプログラムでは外の気温は関係なく、汗だくになりながら大きな動きで遊んでいる子どもが多かったです。

この時期、各地で初参加の子が数名いましたが、参加経験の多い子が初参加の子をサポートするような場面が見られたり、一緒に遊んでいたりと、子どもどうしの関わり合いが印象的でした。グリーンプログラムは子どもたちによって作られている場なのだと、改めて感じさせられた9～10月のプログラムでした。



仙台



陸前高田

参加人数

（9月～10月
開催分合計）

	仙台	福島	陸前高田	宮古	釜石	盛岡
子ども	31	2	10	3	4	3
保護者	20	2	1	2	3	2
ファシリテーター・スタッフ	52	7	13	6	12	10

※ 仙台：子どもグリーンサポートステーション（CGSS）・あしなが育英会主催
 福島・陸前高田：CGSS 主催
 釜石・宮古：沿岸広域振興局保健福祉環境部と CGSS が実施主体、あしなが育英会共催
 盛岡：沿岸広域振興局保健福祉環境部と CGSS が実施主体、あしなが育英会共催、岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト心のケア班・NPO 法人インクルいわて協力



仙台担当ディレクターより

初めて参加するご家庭が2世帯ありました。背景の異なるご家庭ですが、それぞれよい時間を過ごしていただいたように思います。当然のことながら子どもも保護者の方も緊張のご様子でしたが、それほど時間を要せずに場に馴染まれていたように思います。初参加の方を迎える時にいつも感じるのですが、改めてグリーンプログラムは、子ども達、ファシリテーターの皆さんと共に創り上げているのだなと思います。初めての方が気負わずに参加し、思いのままに過ごすことのできるような雰囲気迎え入れてくれる子ども達に感謝します。



岩手担当ディレクターより

最近のプログラムで印象的だったことは、「津波」や「3.11」という言葉が子どもたちから話されたことです。東日本大震災から4年半が経過しました。子どもたちは時間と共に成長し、気持ちや体験等を言葉で表すようになってきました。大切な人や大切な思い出のある場所を失ったことも実感してきているように感じます。一方で、未だに子どもたちは「近くに公園があるといいな」という会話をします。遊ぶ環境が整わず、長い寄り添いが必要と感じます。これから岩手は急激に寒くなり、疲れが出る時期でもあるため、ホッとできる場所をこれからも地域の方々と創っていかれたらと思います。



福島担当ディレクターより

先日、陸前高田のプログラムに参加してきました。私は普段、福島と仙台のプログラムのディレクターやスタッフをしています。各地のプログラムの様子を改めて見てみると、ひとつも同じ雰囲気のプログラムはないことを感じます。仙台は割と規模が大きく、にぎやかな雰囲気であることが多かったり、福島や岩手は小規模ながらも、子どもどうしやファシリテーターとの関係性が密であったり…。それぞれのプログラムに良さがあります。その良さを活かしながら、それぞれの状況や人に合わせて、その地域ならではのグリーンプログラムをみんなで一緒につくっていかれたらいいな、と思いました。

ご寄付のお願い

大切な人を亡くした子どものためのサポートのために、皆様からのご支援が必要です。いただいたご寄付は、大切な人を亡くした子どもたちのための活動に使われます。温かいご支援をお待ちしております。

ご寄付の方法

振込払いにてお願いいたします。

七十七銀行 南町通支店
 普通 5493790
 NPO 法人 子どもグリーンサポートステーション
 理事 西田 正弘

※寄付をされた方のお名前・ご住所・ご連絡先を、電話やメール等でお知らせいただけますようお願いいたします。
 ※領収書の送付を希望される方は、お申し付けください。

NPO 法人子どもグリーンサポートステーション

☎ 022-796-2710 FAX 022-774-1612

✉ info@cgss.jp

住所 〒980-0022
 宮城県仙台市青葉区五橋 2-1-15
 仙台レインボーハウス内

WEB <http://www.cgss.jp/>